

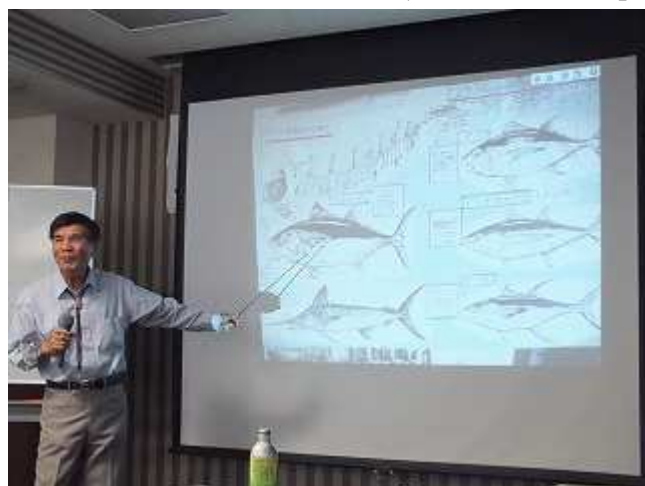
10月6日（土）7日（日）に、焼津で「青年教職員学習交流集会」を開催。

長野、富山、愛知など県外からも13人、合計53人が参加しました。

オープニングの合唱。



枝村三郎氏による講演会「第五福竜丸事件」



焼津フィールドワークは、焼津港、漁業資料館、文化センター第五福竜丸資料館、弘徳院へ。



山口喜春氏による「焼津の水産業」の講演。そして、けさ水揚げされたカツオの解体。





カツオの刺身を賞味し、イワシとサバをミンチにして、焼津特産「黒はんぺんづくり」



盛り上がる交流会。 二次会に並ぶ、カツオの刺身、黒はんぺんフライ、おでん。



10月7日（日）は、渡辺敦雄氏による講演会「浜岡原子力発電所の安全性」



「福島原発事故で放射性物質の動きについて政府はシミュレーションしていたが、国民には知らせなかった。これを愚民政策という。」

「田中角栄の時に立法した電源三法。これはよくできている。地元へ落ちる金に目がくらみ一度原発を誘致したら、やめたら困るような仕組みになっている。しかしその金はゼネコンに行くようになっている。除染にかかる費用もゼネコンに行くようになっている。」

「放射線は、ものすごいエネルギーで細胞の結合を分断し遺伝子を損傷する。例えばまきを割るときのなたのようなもの。また、活性酸素を生成し、酸化＝老化を早める。」

「低線量はむしろ健康に良いなどとホルミシス効果を言うものもある。しかし、低線量でもがんの発症率は高まる。心配するかどうかは別問題だが。」

「福島原発は沸騰水型だが原子炉格納容器の下に水を置かない設計だった。だから水素爆発で済んだ。もしそれが下に水がある型で、水蒸気爆発が起きていたら…と思うとぞっとする。」

「原発は原子力潜水艦の技術を応用したもの。水中にいて揺れない原潜の技術を地上に持つてくるには無理があった。また、プレートテクトニクス理論が反映されていない。世界中の原発は地震のないところに建てられているが、日本にはまさにプレートの境界線上に建てられている。」

「浜岡原発も破碎帯の上に建てられている。何度も地層が動いているということ。なのに、10万年動いていないから、と建設されている。」

「3.11ですべての発電機が壊れたのに、中電はすべて壊れることは想定していないと言っている。」

「次世代からの評価の目を意識する。原発は種の保存にかかわる問題である。しかし、安全性の問題で議論しようとする泥沼に陥る。たかが電気を起こすために、他の方法がないというなら仕方がない面もあるが、10万年後にまでつけを負わせる原子炉でやる必要があるのか。ゼーベック効果など温度差を利用した発電も可能である。予算をつけてくれれば開発することもできるはず。」